

校長室だより「伸びゆく梢」Ⅲ

文責 柴田町立船迫中学校 校長 三浦 道子

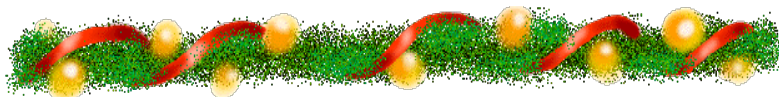
2学期前半が終了し明日から冬休みです。生徒のたくさんの活躍があり成長を感じられた場面が多かった2学期前半でした。冬休み中は家族との時間を充実させ、安全で楽しい年末・年始をお過ごしください。冬休み前の集会で所感を発表した4人の代表生徒の原稿から一部を紹介します。

1年生代表 優月さん



私が2学期に頑張ったことは迫中祭です。特にクラスのみんなと協力した競技が心に残りました。長縄では最初、息が合わず記録が伸び悩みました。そこで並び順番を改めて考え直しました。他の競技の練習や係の仕事などもあり、クラス全員で練習できる回数はあまり多くありませんでした。それでも1回1回の練習を大切にして全力で取り組みました。本番は思っていたよりも時間が長く、途中から疲れてきましたが、みんなで励まし合って最高の記録を出すことができました。迫中祭以外にも学級委員として話し合いの際は意見をまとめたり、クラスの雰囲気をよくするために、みんなとコミュニケーションをとるようにしたりしました。(途中略)

私は迫中祭で深まったクラスの団結力をこれからの活動でいかしていきたいと思いました。



2年生代表 晴さん

2年生としての生活も残り少なくなってきました。部活動では、どの部も2年生が1年生を引っ張って行くことができたと思います。僕が所属するサッカー一部は迫中の後輩はいませんが、合同チームの川崎中と白石中に後輩がいて、試合で緊張している1年生を励ましながらいアドバイスして、みんなが全力で力を発揮することができました。(途中略)

また、行事でも2年生が中心となって活動することが多くなってきました。私たちの学年は、メリハリのある生活や学校のルールを守ることや、学習に取り組む態度、自分から積極的に勉強するなどの面でもまだまだ多くの課題があります。

中学校生活も半分を過ぎ、最高学年になるまで残り3ヶ月しかありません。これからも学習面や生活面などでたくさん成長していき、最高学年としてふさわしい学年だと思ってもらえるように、この3ヶ月間をどのように過ごすか改めて考え、2年生全員で協力していきます。

3年生代表 禄郎さん



3年生のこれまでを振り返ると、最高学年という今までと違う立場でたくさんのことに挑戦することができました。その中で、「たくさんの人の支え」があることを感じ、より一層成長することができました。まず、英語の弁論大会です。僕は県大会に出場するという目標を達成することができました。最初は迫中の代表として出場するという自覚があまりなく、練習から逃げ出したくなる時がありました。しかし、周りの友達や家族が応援していることを知りました。その思いに応えたいと思い、最後まで頑張ることができました。(途中略)

そして、修学旅行、迫中祭など多くの行事を通して、クラスや学年の友人達の力を感しました。みんなが一丸となり、お互いを励まし合い、支え合うことで、最高の思い出を作り上げることができました。

受験は団体戦です。今までたくさんの人に支えてもらったことへの感謝を忘れず、僕たちは、互いに支え合える強みを生かして、学年全体で励まし合いながら頑張っていきたいと思います。

生徒会代表 皓祐さん

生徒会執行部の活動で特に印象に残ったことは迫中祭です。私は生徒会有志企画の運営を行いました。このような活動は初めてでどうすれば良いのか、あまり分かりませんでした。しかし、先輩や先生方が丁寧に教えてくれて担当の審判もしっかりとできた時は、とても嬉しかったです。新執行部でも迫中祭の有志企画のように全校で楽しめる企画をしていきたいです。2学期後半は、生徒会スローガンの発表や行事の準備などの活動を行っていきます。今後も執行部の活動にご協力お願いします。

皆さんの所感からたくさんの学びと成長が分かりますね。

冬休みの前に



2学期の始業式で「宮城で一番、掃除が行き届いた学校」にしてくださいという話をしました。普段の掃除も自分のぞうきんを持参し、教室や廊下を水拭きする迫中生ですが、昨日の全校大掃除でも素晴らしい取り組みを見せてくれました。限られた時間の中でしたが、教室や廊下の窓ガラスや廊下や階段の汚れを洗剤で落とし、きれいに吹き上げ、校舎はピカピカになりました。こんなに懸命に掃除をする中学校は他に類を見ないと自慢したくなります。

迫中生は、ご家庭の年末の大掃除でも活躍してくれるはずですよ。きれいに整った環境で良い年をお迎えください。

ちょっといい話

12月に小中連携の英語授業がありました。小学6年生と迫中2年生が、思い出の行事を英語で伝え合うという授業内容でした。先輩と小学生のやりとりも微笑ましく、6年生はきっと安心して入学してくれると感じた行事でした。

小学生が帰り教室の人もまばらになったそのとき、教室に小さなゴミが落ちていました。誰もが通り過ぎるような小さな付箋紙です。その小さなゴミを2年生の男子生徒が拾い上げ、自分のポケットにしまいました。そのさりげない小さな行動がとても自然で素敵でした。きっと、この生徒は心優しく、何があっても正しい行いをし、周囲から愛される大人に成長するはずですよ。見ていてとても幸せな気持ちになりました。



2学期の始業式に、**凡事徹底**という話ををしました。当たり前ことを大切に積み重ねることができる人は、成長できるという内容でした。社会にでるための訓練にもなるという意味でお話したのですが、当たり前をはき違えた行動も見られました。12月9日の学年PTAで話題になったことがありました。保護者からあった内容は、「授業中に勝手な私語が気になって集中できないことがあると子どもが言っている」「本人は悪気はないようだけれども、人が嫌がることをあだ名のように口にする生徒がいて嫌な思いをしている」「SNS上で悪口を書かれた」それらのことを学校は知っているのかという内容でした。もちろん、学校では本人や保護者から相談があった時や気づいた時は指導しています。

私が校長として皆さんに望むのは、この凡事徹底です。人として当たり前のことは、時代や年代が変わっても変わりません。「挨拶をする。「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べる。人として相手が嫌がることはしない。暴力や暴言は許されない。健康のために早寝・早起き・朝ご飯の習慣を大切にする。課題や宿題は自分のために頑張る等、どれも、とても当たり前のことです。

言葉を理解できる子どもころから、家族や幼稚園や保育所や小学校や中学校でも言われ続けていることです。

自分の凡事徹底を中学生として、社会にでる一人の人間としてもう一度考えて、実行してください。

